あだたら

発行所
二本松市木ノ根坂
あだたら山の会
編集部

三月十七日（日）
奇岩の夫婦岩（五七二㍍）
岩岳（四三〇㍍）

報告　□□□□

夫婦岩山頂、左下は三角点

【参加者】CL□□□□□、SL□□□□□、記録・□□□□、会計・□□□□□

【行動】三月十七日（日）二本松七時出発で松川→飯野→霊山→相馬（玉野）→丸森（筆補ひっぽ）→八時五十分夫婦岩登山口着。九時二十分登山開始→天望台→九時四十分山頂へ。山頂は雪を被る蔵王連峰と吾妻連峰が雲ひとつない晴天にくっきり、最高の登山日和。山頂でCoffeeTime後、少し離れた見張らし台へ。浜通りの新地・鹿狼山が目の前に聳えて見える。夫婦岩は丸森町の南西部、筆甫集落に隣接する岩稜帯の山である。約二千万年前の火山活動で堆積した凝灰角礫岩が河川の浸食作用で高さ五十㍍総延長四・五㌔にも及ぶ岩稜・断崖地帯を形成したものだそうです。十時五十五分、登山口へ下山。初の夫婦岩は水が流れ山頂にはテーブルストーンなどの奇岩が多く四名とも大満足で、行き帰りとコースを別ルートにしたのも、良い経験になりました。山行中は一組の夫婦らしき人達に会ったのみで静かな山を独占状態でした。

●編集部連絡先
二本松市郭内1－5－5
0243（22）4245
渡辺　正

下山後　十一時三十分、岩岳登山口へ。岩岳は宮城県の南部、阿武隈山地の北部に位置する花崗岩の山です。北部の岩場はクライミングのゲレンデとして知られている山です。登山口は三カ所ありますが、初心者でも不安なく登れる、第一登山口から三十分程度で登れますので、下山は第二登山口に下山するコースを選択しました。山頂ではゆったり昼食をとり、十二時四十分に下山を始め途中天候も良好なので、全コースを歩くため登山ルートから離れた第一見張台（ルートから七十㍍離れ）、第二見張台（ルートから百六十㍍離れ）を廻り、十四時三十分下山しました。途中一名の高校生に会ったのみでした。二本のマンサクの木が満開だったのが　唯一の春の訪れでした。途中は岩場が多く急斜面で足場が悪く、注意が充分必要です。夫婦岩もクサリ場が何箇所かあり、低山ながら気の抜けない山行でした。下山後は行きと同コースをとりながら途中霊山の道の駅に寄り、十六時四十分二本松へ到着しました。

二つの山行とも登山道は整備されていましたが里山の特徴の通り、判断に迷う道があり、なかなか行かない山で、有意義で充実した山行でした。

◆　◆　◆

報告　□□　□□

岩岳

朝から天気が良くいい山登りになりそうだなと思いました。今回の山は霊山の後の方で、一応宮城県です。夫婦岩と岩岳の二山で両方とも大きな岩が沢山ある山です。夫婦岩は凝灰角礫岩、岩岳は花崗岩とのこと。ブラタモリのタモリさんの様な気分になって、大岩を眺め、岩の上に登ると、高山を思わせるような断崖絶壁で、思わず足が竦む思いでした。でも　遠くに目を移すと太平洋がかすかに見え、雪をかぶった蔵王の山々、吾妻連峰も見えました。天候に恵まれ、一日満喫した山行でした。

◆　◆　◆

報告　□□□□□

夫婦岩への途次気付いたこと。霊山には「副霊山」もあること。なぜ「副」なのか？。更に、丸森町筆甫地区を経て夫婦岩登山口に到着するが、この「筆甫ヒッポ」という地名も、面白く感じた。地名の由来をご存知の方はいらっしゃいませんか。

▼地名「筆甫」の由来（ウィキペディアから）、伊達政宗が領内検地した際、最初に記入した土地である由縁で「筆の甫（はじめ）」を意味して名付けられたとされる。

三月二十四日（日）
三月山行、冬山パトロール

報告　編集部

今シーズン最後の　安達太良山冬山パトロールを実施した。当日、奥岳登山口では、烈しい地吹雪状態、薬師岳も見えない状態だったので、まず、くろがね小屋に向かった。朝まで雪模様で、登山道にも五～十センチ程度の新雪。張っている氷が見えないので滑り易く、私も馬車道の登りで転倒、久し振りの「顔面制動」やってしまった、眼鏡は無事。滑り止め用アイゼンの使用が望まれる。くろがね小屋でも、山頂方向は地吹雪状態、今回はここ迄とした。冬山とは言え、三月末、くろがね小屋迄来る登山客は多く、昼食時小屋はほぼ満員。話聞いてると、山頂付近ももものすごい風で、立っていられないほどだったという。下りも猛烈な風、「八の字」を過ぎて漸く風は収まった。

◆　◆

私は今回、冬山パトロールに参加するのが初めてであり、いつもより気温の面でも寒く、（雪道は）登山道とは異なり道は狭いので、大変な場面が多かった。また冬山に必須となるアイゼンを持っていなかったため、□さんが予備で持っていたことから借り、登ったので、脚の負担は、あまりなかった。アイゼンが途中で外れることもあり、皆さんに助けていただきましたが、怪我をすることもなく、無事に全うすることができて良かった。

報告　□□□□

鳥川のつらら

三月山行、夫婦岩・岩岳続き

報告　□□□□□

夫婦岩、岩岳は宮城県南東にあり、鹿狼山（新地町）より南にある県外の山であるが、霊山の裏山なので、今の時期にかけてよく通う山エリアになっている。

梁川の松坂峠からも行けるが、今回霊山より高速に入り、次のインター霊山・飯舘ＩＣで、一一五号に入る。ここのインターは、今流行のハーフインターで一度降りると先の相馬には行けない、又霊山に戻るだけのＵターンインターです。次の相馬玉野ＩＣも同じ方式です。注意を要します。霊山国道よりすぐに右折、古霊山の山並みを左手に筆甫（ひっぽ）へと抜けるとすぐ夫婦岩への小さな案内目印があるので見落とさない様にする。今回二本松からは最短コースを選んでみた。間もなく四十～五十台の駐車場に着き早速スタートする。山案内には往復になっているが、私の悪い癖か、すごく善いところか、やはり周回となる！！。コースと時間があれば、皆さんはどちらを選ばれますか。出来たら山頂を周回すれば、山に二度登ったことにもなるので、後者に賛同していただけたら、倍楽しめると思います。又時々後を振り向いて見ましょう、森の動物達と素晴らしい展望に出会えるかも！！。『余談だが、宮城県の山に五十八座あるが、残すところ須金岳と小東（こあずまだけ）…大分前にすぐ前に大東岳があり小東岳を「しょうとう岳」と勝手に呼んでいたものでした（笑）…の二座だけとなりました』。

ＣＬ□□さん

さて夫婦岳登山口より程なくＹ字分岐らしくなり、通常は左ですが、周回の展望大岩へと向かうが里山の道迷いポイントになり皆ダマされて迷う！！。小川にさしかかり、徒渉に飛び石も並んでいて注目し、いかにして渡るかとの思案となる。自然と渡ってしまうが、見落としに注意！！、直角方向に本道があり、周りをよく見て判断した。徒渉点は釣り道や作業道の分岐点になってることも少なくなく、覚えておくと後日役立つかも知れません！。

話も本道へ戻り、鎖など急な岩場をひと登り、展望大岩へとたどり着き、東方の大展望が開けて、海の方まで見える。一休みして、三等三角点のある夫婦岩山頂へと着く。これより先が火山活動で出来たという断崖絶壁が連続して、大展望の女岩へと着く。北に岩稜帯を縦走できるとあるが、この辺が一般的である。

西側に蔵王連峰熊野岳、吾妻山、船形山、大東岳、雁戸山、青麻山も近くに見えた。帰りは鎖場の連続する急坂なので油断せずに戻ろう。

下山後は岩岳へと県道四五号に戻り、近道もあるが、判りやすい道路を岩岳北側の第三登山口を説明しながら、きれいなトイレも完備している大駐車場三十台の第一登山口に着き、早速昼食を楽しみに登山開始。二十分弱で先程の第三登山口からの分岐になり岩場着。祠に手を合わせながら山頂に着く。大展望が！。岩の上から夫婦岳も低く見えるくらいだ。風もなく穏やかで、待ちに待った大昼食会が女性陣からの沢山の差入れもあり、始まった。

走って歩いて登って大展望、好物一杯食べて「家に居て騒がれるより、健康寿命も伸び、この上なし！」。雪の船形連峰など雪山の山容が素晴らしい。次の第一第二の展望所の縦走周回もあり、スタート。今日一番の難所の急坂岩場を足許に注意しながら下り、二箇所の展望台を見て廻り、分岐へと戻る。やはり第一がベストだ。これより第二登山口まで、最後の急坂を落石の音など注意しながら全員無事に下山し、車道路を川に沿って一キロ程景観を楽しみながら車のある登山口へと戻った。

低山ではあるが、岩場歩きの技術を習得するクライミングの山でもあった。

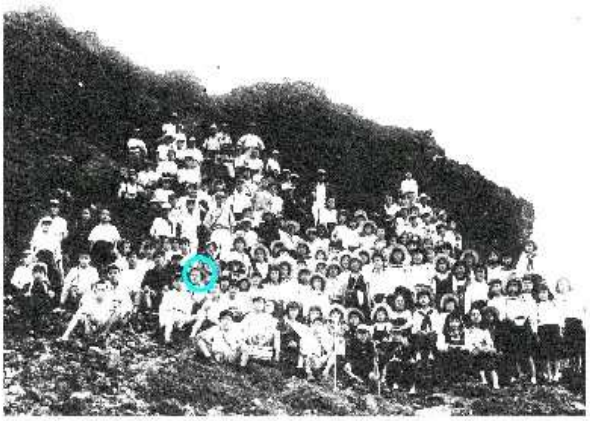
今回の登山に合わせて放射線量を測って見たので報告します。当時より大きく下がっていて　〇・一五～〇・三μｓｖ、連続計測。ＰＡ－１０００使用（堀場製作所）。

□□さん・車両の提供・長時間の安全運転、□□さん・登山計画書作成・通信員・進行まで、□□さん・会計責任者、事務局・留守番・スタッフ一同様。

あだたら山の会、平成最終となる記念山行を担当頂き、本当にありがとうございました。（終）

私が初めて登った安達太良山

□□□□□



私が生まれた旧安達郡小浜町大字上長折字仲の作は小浜でも高台に在り、西には安達太良山があり、その雄大な姿を眺めながら小学・中学校に通学していた。一般的には岳山と称し、岳山に三回雪が降ると里にも降ると言われていた。

私が中学三年生の夏（昭和二十七年）、学校で希望者を募り岳山に登ることになった。当時の小浜中学校は、戦後疎開していた生徒もあり三学年で生徒数は六百人を超えていた。岳山登山にあたり、学校からの注意事項もあったと思うが、全然記憶にない。服装や弁当、水筒など持参することなど注意があったと思う。

当日の事を思い出すと、省営自動車（当時の国鉄）のトラックが三台来て、荷台にはロープが縦に二本横には三本が張られ、生徒が荷台に乗るために踏み台が置かれていた。荷台に大人が居て、一人ひとり引き上げられて乗った。その時肩から下げた水筒が壊れた人もいた。総勢百人以上だったが三台のトラックに乗り、「町中や二本松を通る時は荷台に隠れ静にするように」と注意された事は覚えている。車も裏道を通ったし、嬉しく騒いでいると先生から注意された。岳温泉ではどこに降りたか記憶にない。温泉神社から登りはじめた。鳥川では冷たい水を腹いっぱい飲んだり、水筒に入れた記憶がある。水が冷たく長く手は入れてられなかった。急な登りに差し掛かった時、木の管の穴が開いたところから水の流れる音がしたし温泉の匂いもした。誰かが岳温泉に温泉を引いている、と話してくれた友達もいた。少し登って平らな道に出た。勢至平の辺から黒い絶壁が見えた。鉄山だが驚いて見た。足元には見たことの無い珍しい草があった。皆も珍しく、ちぎったり小さな松など持ち帰った人もいた。途中の事は記憶になく、尾根から見た噴火口を見て別世界に来たような気がした。どこを見ても珍しい物ばかりで、頂上は丸く俗に乳首山だ。鉄のはしごがあり、山頂に立ちあの辺が小浜だよ、と教えられた事を思い出す。昼に弁当を食べた事は記憶にないが、「写真取るから」と言われてそれぞれが座った。その後、下山途中の写真もあるが、どの様にしたのか、すっかり忘れた。写真があるので当時の服装は見ることが出来る。女子はセイラ服にスカート、靴は下駄か草草履で、私はズックを履き、手提げかばんを下げていた。今思うと、天候に恵まれたので問題はなかったが、もし雨などに会ったら天変だった。あんな服装でもけが人はなく元気に帰ったと思う。現在の学校では考えられない行事で、もしもの事がある事など考えてはいたと思うが、良い思い出として懐かしく甦る。